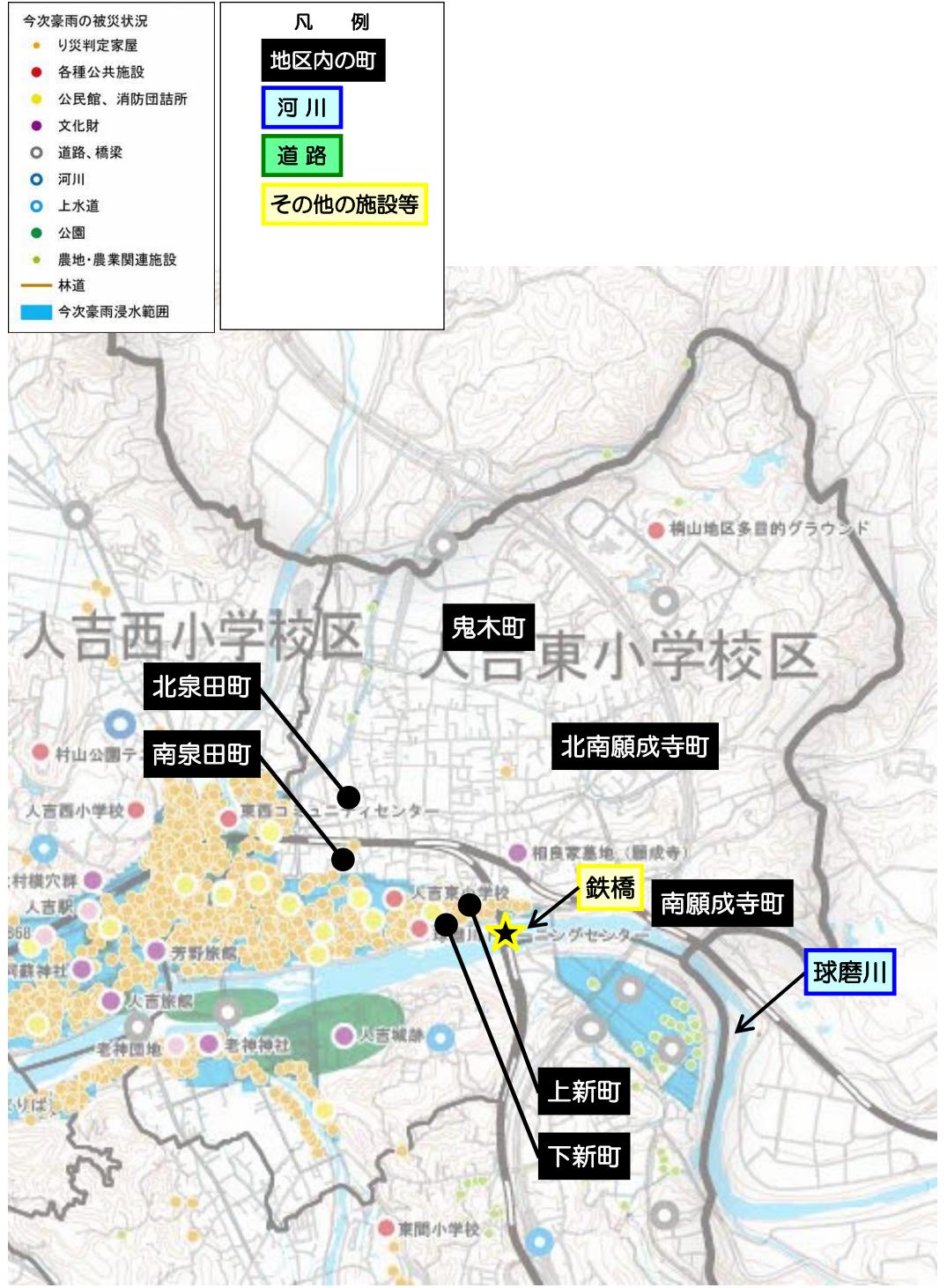


※第2回校區別座談会における参加者による意見であり、決まった内容や事実確認をした内容ではありません。

令和2年7月豪雨による被災状況図



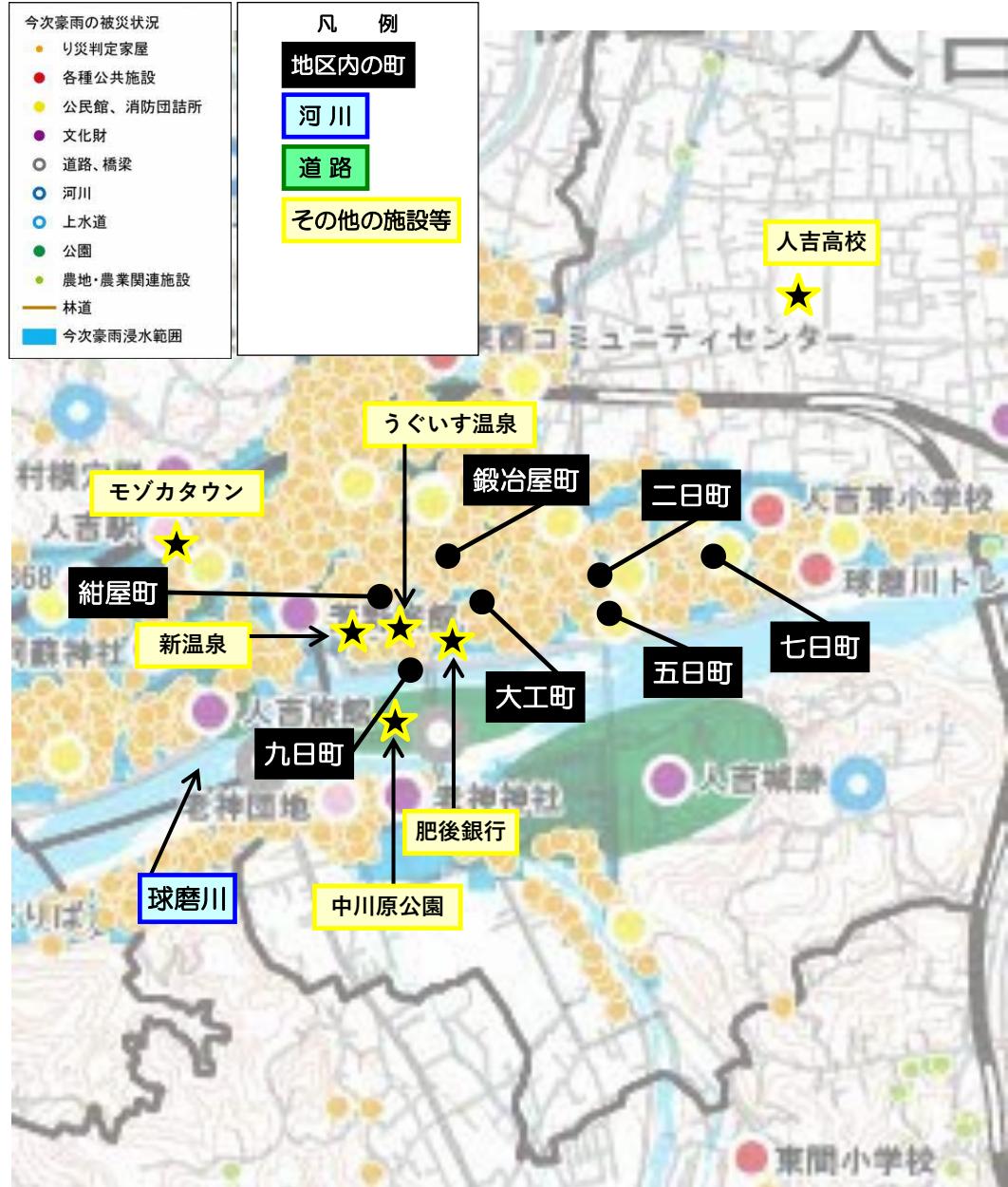
※出典：
 ・り災判定家屋：り災判定（令和3年2月上旬時点）
 ・各施設：庁内資料（被害報告）
 ・今次豪雨浸水範囲：八代河川国道事務所提供資料（球磨川本川のみ）

【中心市街地の重点地区（案）への意見】
 ・候補地区の中でも七日町、上新町、下新町は住宅地寄り、商業中心の町とは特性が異なる。住宅地として再生するため、自力で再建できない方のことを考慮して地盤の嵩上げができないか、検討してもらえると良い。
 ・候補地区以外の町内でも被害が出ている。

項目		東校区の主な課題や要望について
住まいの再建	住まいの被害と状況	<ul style="list-style-type: none"> 町内は高齢者が多く、自力再建が困難。修繕して住む方はいるが、公費解体するとおそらく再建は難しいのでは。生まれ育ったところで公的に盛土をしたような場所に住めると良いが。【下新町】 出ていく方がいると虫食い状に空いていってしまう。そのような環境の中で、今住んでいる人もいずれは建替えるときがくる。外から人が入って来ないとコミュニティが壊れてしまう。 町内では6軒が被災した。移転、再建する方、未定の方など様々だが、再建してもまた浸水する恐れがある。【南願成寺町】 自力で再建してもまた浸水する可能性があるため、判断を迷う。公の方針が出るのに時間がかかるので判断が難しい。結果的には自力で再建することを諦めて帰って来れない方が多い。 個別の状況が市に届いていないのでは。まずは被災者の声を聞くべきではないか。 調査チームをつくって各戸を回り、支援メニューを提示しながら状況を把握することが必要では。 支え合い支援員が何度も各戸を丁寧に回られている。【上新町】 町内では約20軒が浸水した。地域コミュニティに影響があり、班の中では7軒中2軒しか残っていない。残りは借家で、再建後の入居者は被災者の方のため、2年程で出て行かれるのではないか。【北泉田町】 町内には自宅再建を迷っている人もいるが、残りたいという人が多い。【上新町】 町内会としては長く住んでいた被災した世帯に戻ってきてほしいというのが基本的な思い。 人の出入りに合わせて、新しいコミュニティをつくっていくことも課題。 高齢者の再建にリバースモーゲージを活用しては。
	避難対策	<ul style="list-style-type: none"> 避難場所 避難誘導
要支援者対策	要支援者対策	<ul style="list-style-type: none"> 要支援者を車に乗せて避難した。【上新町】 訓練よりも誰が誰を支援するか、きちんと決めておくことが重要。【上新町】 高齢者の耳が聞こえづらい方は電話やインターホンが聞こえなく起こすのに苦慮した。【上新町】
	道路	<ul style="list-style-type: none"> 洪水で歩道のマンホールの蓋が外れ、位置も見えづらく、足をすくわれる人がいた。次にそういうことがあった場合は、マンホールのない道の真ん中を歩くよう誘導する必要がある。
生業再建	生業再建	<ul style="list-style-type: none"> 東日本で、新しく大規模な店舗が整備されたが、元々の小さな商店等がテナント料を払ってまでは入れないという例がある。元々の方が生業を再建しようとしたときに、従前の商業では成り立たなくなることがないか、気がかり。 生業を取り戻すまでの生活ができないと、再建もできない。
治水	治水	<ul style="list-style-type: none"> 川と共存していくことが難しい。 球磨川の鉄橋に流木が引っかかり、それが原因で越水した。 次の出水期に向け、河床掘削を急いでほしい。昔と比べてもずいぶん浅くなっている。
復興まちづくり	復興まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> 再建や治水対策のための期間をどう考えるか。住まい、生業、コミュニティなど、いろいろなものを取り戻すのに時間がかかるため、本当に取り戻せるか不安がある。公の方針は早く示してほしい。 被災していない町内会が、復興まちづくり計画にどう関わっていくのが良いか。水害を体験していないため分からないこともあるが、今後地震等の災害の恐れもある。【鬼木町】 →将来の複合災害への備えとして防災まちづくりを検討してはどうか。 地震への備えはできていないところが多い。地震を想定すると要支援者の対象も増える。 地震に関しては願成寺や鬼木町も含めて避難路の検討をする必要がある。 地震の際は近所の空き地、駐車場に集まり点呼をすることにしている。【上新町】
その他	消防団	<ul style="list-style-type: none"> 消防団員の人員不足が課題。
	鉄道	<ul style="list-style-type: none"> 人吉-吉松間を復活させ、鉄道を復活のシンボルにしてはどうか。陸の孤島にならずに済む。
	バス	<ul style="list-style-type: none"> 巡回バスを、ワンコインか被災者は無料で運行できないか。仮設住宅の高齢者が買い物等で利用できるようなルートが良いのでは。

※第2回校區別座談会における参加者による意見であり、決まった内容や事実確認をした内容ではありません。

令和2年7月豪雨による被災状況図



※出典：
 ・り災判定家屋：り災判定（令和3年2月上旬時点）
 ・各施設：庁内資料（被害報告）
 ・今次豪雨浸水範囲：八代河川国道事務所提供資料（球磨川本川のみ）

【中心市街地の重点地区（案）への意見】
 ・4月の第1回目地区別懇談会は、七日町、五日町、九日町、二日町、鍛冶屋町、紺屋町、上新町、下新町、大工町の9町で開催。
 ・話し合うテーマによっては、消防団のまとまりや被害状況の大きさに応じて集まることも今後検討する。
 （消防団のまとまり）
 鍛冶屋町、紺屋町、九日町、消防団で一つのグループ。
 二日町、五日町、七日町、大工町、消防団で一つのグループ。
 （被害状況の大きさ）
 鍛冶屋町、九日町、紺屋町、大工町で一つのグループ
 五日町、七日町、二日町、上新町、下新町で一つのグループ

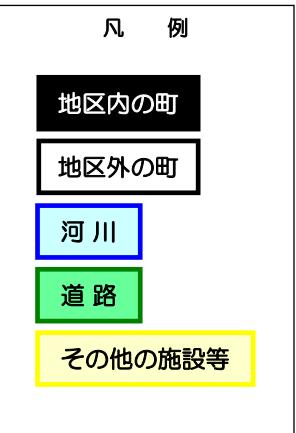
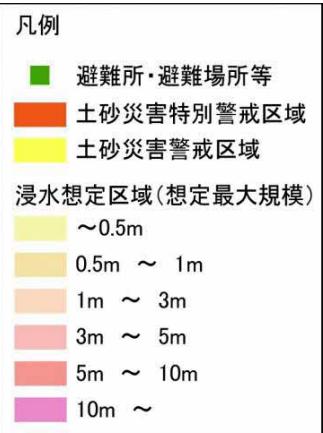
項目	東校区の主な課題や要望について
住まいの被害と状況	<ul style="list-style-type: none"> 公費解体の状況すら町内会長は把握できていない。まちなかの状況をしっかり把握することが大切。その上で中心市街地のまちづくりを考えていくことになる。 中心市街地は高齢者（後期）が多い。年金暮らしがほとんど。銀行もお金を貸してくれない。 空き家問題も解決する必要がある。公費解体と合わせて対応しては？行政で対応できないか。 今年のお水を見た上で家を建てる建てないの判断をしたいという人も多いだろう。
住まいの再建	
避難場所	<ul style="list-style-type: none"> 今年の7月に水害はまた来るかもしれない。この地域は避難訓練をしていないことが課題。避難所に備蓄がない。避難所の東小学校にも水が入った。盛り土が必要。避難計画をしっかりとる。 紺屋町に避難所が足りない。会館は川端で避難所をどうするか課題。高台に避難場所をつくるべき。 ホテル、病院等を一時避難場所として使えない。避難ビルもいいことだが、費用の問題がある。
避難誘導	<ul style="list-style-type: none"> 大工町は大丈夫という神話が昔からあったが、今回の水害で浸水した。油断があったかもしれない。 東小も水が来て安全な場所ではなくなった。人吉高校と言うが、非常に遠い。今回の水害では会館に集まった高齢者は東小に車で送ったが。
要支援者対策	<ul style="list-style-type: none"> 災害時は自分が逃げることで精一杯。高齢者への声かけまではできなかった。
生業再建	<ul style="list-style-type: none"> 生きるためには商売が必要。 被災した町内はどんどん疲弊している。去年の7月から町内会費をとれていない。今後、町内会の運営が出来なくなる可能性がある。財源がない。 中心市街地が元気になることが市の再興で一番大切。
治水	<ul style="list-style-type: none"> 河川の掘削（例 水の手橋上左岸等）ようやく始まった。堤防を高くすることは景観上も良くないので、河道をしっかりと掘って対応することが大切では。漁業権等もあると思うが。 わかりやすい表現に努めて欲しい。Omと言われてもわからない。 今回の水害の原因の一つは、川底の砂の堆積。球磨川の水が橋を越えた。河川内の砂利を50年間取っていない。大きな原因となったのでは。昔より川の深さが相当浅くなっている。
復興まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> 中心部の土地利用 東校区は、人吉市の中心であり、球磨川を中心としてまちがづくりあげられてきた。高齢化や商業の状況も変わってきているが、なんとか、もとのまち又はそれ以上のまちになって欲しい。 青井地区は国道445号の話がある。良いことだと思うが、紺屋町なども路地裏があり、込み入った場所もあるが、逆にそれが魅力でもある。全体での土地利用の考え方を示して行く必要がある。しかも、皆が早く帰ってくるのは、早い段階で土地利用や道路整備の考え方を示す必要がある。 分散型拠点 商店街等は、まちなかに一カ所大きいものをつくるのではなく、まちなかに点々とつくっては。 市営住宅 地価が下がっている。空き家も増えている。乱暴な言い方だが今が逆にチャンスかもしれない。土地を市が借りて市営団地をつくるのか。1階は店舗に貸すなど。3、4軒の土地をまとめると一つの市営団地ができるのでは。家を建てるまでの仮設住宅として活用しては。 病院と買い物が歩いていけるところにある高齢者対応の市営団地を。エレベーターも設置。 被災前は城下町なので3階以上は建てるなという考えだった。被災後は、人を寄せるためには、公営住宅（下が店、上が住居）も必要ではと思うようになった。駅前商店街モゾカタウンを参考に。 温泉のまち 人吉は温泉のまちである。ただ、今はまちなかに温泉がない。人吉の温泉センターをつくることも一つの方法である。土産物、休憩所なども一緒につくるとそこを中心に栄えると思う。いままでは旅館と銭湯が強く温泉センターができなかった。 まちなかに人が集まる工夫を。東屋の足湯なども点々と設けるなど。うぐいす温泉、新温泉など今でも掘ればまた出る。所有者がやらないとなれば行政がやることも考える。観光客がゆっくりできる場所を検討する。むかしは温泉祭りもあった。 球磨川の魅力 球磨川沿いは、堤防ができる前は、川でよく遊んだ。昔は風情があり若い人の逢引きの場所でもあった。ロマンチックな場所だった。 人吉は球磨川と密接に生活してきた。河川空間の創出、親水空間をつくるのが大切。 町並み 市で条例をつくって城下町風の建物の誘導等は大事なこと。再建前に誘導することが有効。 中川原公園 中川原公園からの眺望が一番良いとアンケートでも意見があった。面積をコンパクトにして活かすという方法もある。中川原公園は小さくても残して欲しいという声が多いと思う。 中川原公園は歴史がある。かつてサーカスと夜店が出ていた。消防署、旅館、住宅等もあった。 道路の在り方 九日町の国道を、県、市道に格下げし、安心して歩けるよう歩道を広くし車道を狭く整備しては。車も飛ばさなくなる。今は横断歩道でも止まってくれない。 逆に、格下げは反対。国道だから国から補助金が出ている。国が補償してくれる。 支援策 新しく建つ建物がたけのこのように見えてくるには、手厚い支援も必要（国、県、市）。 住民主体の取り組み 九日町と紺屋町で話し合いを始めた。来月またやる予定である。肥後銀行の2階を使っている。これまで話し合いをすでに2回開催している。 その他 鉄道 鉄道の再開も大切（三陸鉄道のケースのように）。開通すれば観光客も戻ってくる。 地区別懇談会 復興まちづくりの資料4-2の「進め方の工夫」は大切。現場の方の声をきちんと聞く。 先人の知恵 昔から流域に住んでいる人の経験は有益なのでしっかり耳を傾けるべき。これが役に立つ。 情報提供 流域治水の取り組みなど、もっと情報提供を心がけて欲しい。市の動きがまだまだ見えない。

※第2回校區別座談会における参加者による意見であり、決まった内容や事実確認をした内容ではありません。

■避難所・避難場所、災害リスク図



項目	東校区の主な課題や要望について
避難方法の見直し	<ul style="list-style-type: none"> 避難場所 <ul style="list-style-type: none"> • 町内に避難施設がない。胸川を渡ることが難しいので、原城町が避難所になる。但し、田町から原城に行くための道が崩れかねない。【麓町】 • 保健センターに避難するのが難しいため、一部住民の中には自宅が安全という認識がある。そのため、避難につながらない。 • 保健センターに行くには田町橋、むつみ橋を渡るしかないが川が溢れそうで渡れない。またむつみ橋に行く途中、東間小学校周辺が浸水する。【田町】 ※胸川東岸の町内向けの市指定避難所・自主避難所を設ける必要がある。 <ul style="list-style-type: none"> （例）東林寺：但し、急傾斜に位置する 林鹿寺：以前麓町に避難所として指定されていた 相良神社： <ul style="list-style-type: none"> • 市営原城団地の集会所を避難所として開放してもらえるように、管理人の方に許可をもらっている。【麓町】 • 寺に炊事場と宿泊施設1軒を貸してもらえるようにしている。【麓町】 • 人吉田町簡易郵便局の東側が坂道になっており、住民は同坂道の上に避難する。但し、急傾斜に位置し、約50年前に補強工事が行われたが、いつ崩れるとも限らない。町内の公民館は浸水する。【田町】 • 今後、人吉市立第一中学校、人吉市役所新庁舎が胸川西岸の避難所になる可能性がある。
避難誘導	<ul style="list-style-type: none"> • 胸川東岸の町内は、胸川を渡って避難所である保健センターに住民を安全に避難するかを検討する必要がある。 • 住民のほとんどが70歳以上の高齢者である。高齢者の避難支援について、誰が支援を行うのか事前に決めておいて、発災時に従前の通り動かけられるかが不安である。 • 防災無線が聞こえなかった。→次の出水期までに防災ラジオの戸別配布が行われる。
住まいの再建	<ul style="list-style-type: none"> • 高齢者の自宅再建は資金的に厳しい。行政側の支援について確認したい。 • 元の場所に自宅再建する場合は、避難場所となる高台や避難施設の整備が必要となる。 • 修繕して住み始めている住民、4軒いる。【麓町】 • ほとんど被害がなかったため、発災前の状態にほとんど戻っている。【南寺町】
復興まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> • 仮設住宅の住民とのコミュニケーションを築けていない。住民の皆さんが、発災前に住んでいた町内・集落との付き合いを維持しているためと考えられる。 • 麓町の仮設団地には、様々な町内の方が住んでいる。至急手当の必要がある住民に入ってもらっている。 • 市外等に避難されている住民の方々に連絡がつかない。個人情報観点から市と住民の間で情報を共有することができない。
治水環境共生	<ul style="list-style-type: none"> • 胸川の河道掘削をししないと、今後の出水期に氾濫する可能性がある。



※出典：
 ・避難所・避難場所等：人吉市総合防災マップ
 ・土砂災害特別警戒区域・土砂災害警戒区域：国土数値情報
 ・浸水想定区域（想定最大規模）：
 八代河川国道事務所提供資料（球磨川本川）
 熊本県提供資料（万江川、胸川）
 ※上記以外の河川については浸水想定区域が未公表

【麓町・老神地区の重点地区（案）への意見】

- 重点地区：田町、新町を追加
- メンバー候補：消防団、民生委員、新町老神若手まちづくりグループ、子ども会役員、事業所
- 地域別座談会に参加できない住民へのまちづくりのアンケートはしないのか。